

143基礎工事用機械を起因物とする死傷災害100事例まで（2019年）

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	小業種	労働者規模
1	2019	2	11～12	工事現場で、敷鉄板上で杭打機のバックステーを分解するため、ボルトを緩める作業を行っていた。バックステーのジョイント部は上部に負担が掛かりやすいため、取り外したボルトを使い上部を仮止めして作業を行っていたところ、他のボルトを締めようと力を加えたとき、ステー本体が動いたため仮止めボルトに負荷が掛かり外れ飛んだ。その際、ボルトが左顔面に当たり、左目と左頬を負傷した。	48	6	30209	30～49
2	2019	2	10～11	H鋼を打設している際に、金物にて押さえながら作業していたところ、1m程度一気にH鋼が打ち込まれてしまい、持っていた金物が一緒に落下し右足を骨折した。	59	6	30201	10～29
3	2019	2	9～10	倉庫建設工事現場で、杭打機を使用し地中の既存共同溝の位置調査を行っていた。杭打機の孫ワイヤーがスクリューに振れて巻き込み切断し、フックが落下した。その際、下部にいた被災者の後頭部に直撃し負傷した。	18	4	30201	1～9
4	2019	3	16～17	スイベル装置のメンテナンス中に、装置にグリスをなじませるために、装置を僅かに回転させた際に、誤っておいた左手が、固定H鋼の間に挟まれて、左手首を脱臼した。	41	7	30201	30～49
5	2019	3	14～15	小学校の全面改装工事のため杭工事をしていたとき、主管ドラムのブレーキカバーが開いていたため閉めようとした。その際、機械を停止させなかったため、左手がドラムのワイヤーロープに巻き込まれ、左手中指と小指を切断し、薬指に挫創を負った。	68	7	30201	1～9

6	2019	5	16 ～ 17	地下1階床上で、高圧ロール釘打機の先端アタッチメントを調整した。その際、不注意でレバーを握ったまま行い、誤って右指骨を打ち抜き骨折した。	59	8	30201	～ 9
7	2019	6	14 ～ 15	地盤補強の作業中、ポイントの控え（逃げ）を手元作業員が出している側へ材料を吊り込み、施工機を移動させたとき、リーダー底面に載せていた材料が外れ、ヘルメットに接触し、頭部と頸椎を負傷した。	24	6	30201	～ 9
8	2019	7	10 ～ 11	倉庫新築工事現場にて、基礎工事の杭打ち作業中、重機で丸木杭を吊るワイヤーと重機端部の間に右手を挟み負傷した。	25	7	30201	～ 29
9	2019	8	11 ～ 12	電柱支障建替工事の作業現場で、コンクリート柱建柱箇所の掘削に伴い、アースオーガを伸ばすためにオーガスクリュアのロックピンの刺さる箇所に右手小指を入れていたとき、オーガシャフトが下がり受傷した。	26	7	30301	～ 29
10	2019	8	14 ～ 15	ウォータースイベルが供回りしたため、供回り防止装置が破断して落下し、左斜め前方約2mにいた作業員に接触し、肋骨と右足を折った。	47	4	30201	～ 29
11	2019	8	15 ～ 16	既存PC杭の引き抜き後、埋戻し材を流動化処理土の攪拌作業準備を行っていた。ケーシングを杭穴にセットするため、被災者がケーシングに手を添えたとき、リーダーの途中で引っ掛かってしまっていた足場用振れ止めが落下し、被災者の顔面に足場用振れ止めの手すり部が接触し、右頬骨を折った。なお、被災者はヘルメットを被っていた。	45	4	30201	～ 9
12	2019	12	8 ～ 9	建設現場で、停止していたボーリングマシンのエンジンを再度掛けた際、エンジンベルトがたわんでいた。そのため、右手で直していたら、ベルトが動き出して手袋ごと右手が巻き込まれてしまい、右手人差し指第一関節と第二関節の間辺りから切断（辛うじて繋がっている状態）を負傷した。	45	7	30309	～ 29

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各起因物における死傷災害100事例まで（2019年）](#)に戻る。